

# 上昇2度未満 視野

## COP26 温室ガス削減目標上積み

### 1.8度試算

国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP26）で、各国が温室効果ガスの削減目標を更新するなどしたことから、パリ協定で掲げる産業革命前からの気温上昇を2度未満に抑える目標の達成が視野に入ってきた。国際エネルギー機関（IEA）が、各国が目標

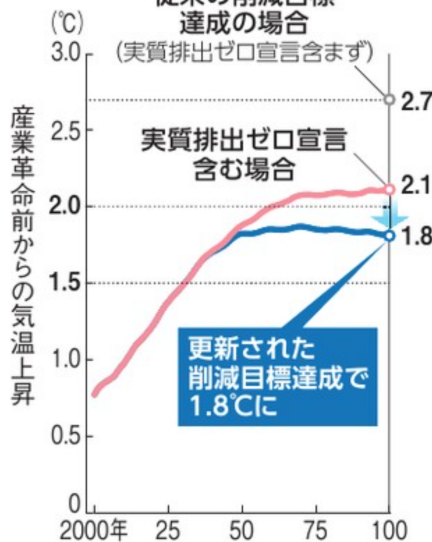
通りに削減を進めれば、今世紀末の気温上昇は1・8度に抑えられるとの試算を公表した。

英国で開かれているCOP26で4日、脱石炭火力のイベントに出席したIEAのピロル事務局長は「これは祝福すべき成果だ」と述べた。分析によると、各国

が更新した削減目標に加え、日本など100カ国超が、温室効果の大きいメタンを2030年までに30%削減することで合意した。果などを加味したという。一方、国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の主要メンバーらが参加する研究チーム「クライ

気温上昇の予測  
クライメートリソース、  
UNEPの報告書から

従来の削減目標  
達成の場合  
(実質排出ゼロ宣言含まず)



メトリソース」も試算を公表。気温上昇は一時的に1・9度近くに達するが、今世紀末には1・8度に抑えられるとの見通しを示した。各国が実質排出ゼロを

目指すと宣言したことに加え、排出量世界3位のインドが30年の目標を積み上げ、影響が大きいという。研究チームは「歴史上初めて(気温上昇予測が)2度を

下回った」とした。

国連環境計画（UNEP）の試算では、COP26前の各国目標のままでは気温は2・7度、実質排出ゼロの長期目標を加味しても2・2度上昇するとしていた。クライメートリソースの分析も同じ傾向だった。ただ、実際に2度未満に抑えられるかは、各国が目標に沿った政策を作り、実行できるかにかかっている。ほとんどの国は実質排出ゼロに向けた具体的な道筋を描けていない。

(グラスゴー＝香取啓介)